祝 ユネスコ無形文化遺産登録

吉弘楽

【国指定重要無形民俗文化財】

勇ましい姿に観客が魅了

7月23日、武蔵町吉広の楽庭八幡社で吉弘楽が行われました。昨年11月に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産登録が決定してから初めての開催で、市内外から多くの観客が訪れました。

「楽人（がくと）」と呼ばれる約40人の踊り手たちは、かぶとや腰みのを着けた古式ゆかしい衣装で登場すると、太鼓や笛、かねの演奏に合わせて全14の演目（つぐり）を披露し見物客を魅了。吉弘楽保存会の甲原文男会長は「吉弘楽を後世に引き継ぐため、学校などと協力しながら伝承していきたい」と力強く話してくれました。

４年ぶりの通常開催で地元に活気が戻る